

c-4) ヤマアカガエル

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」⁶⁾に絶滅危惧II類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州、佐渡島等に分布²⁰⁾する。佐賀県内では、脊振村一谷、富士町日池、上小副川、上無津呂、七山村荒川、浜玉町鳥巢、伊万里市滝野、東山代⁶⁾における記録がある。

生息分布は広く、標高100m以下の平地から2,000m近い山地まで²⁰⁾である。昆虫、ミミズ、ナメクジ等を食べる²²⁾。繁殖期は普通2月～4月²⁰⁾である。池や水田、また道端の浅い水溜まり等でも産卵する²⁰⁾。卵は直径1.5mm～2.4mm、産卵数は1,000個～1,900個²⁰⁾である。

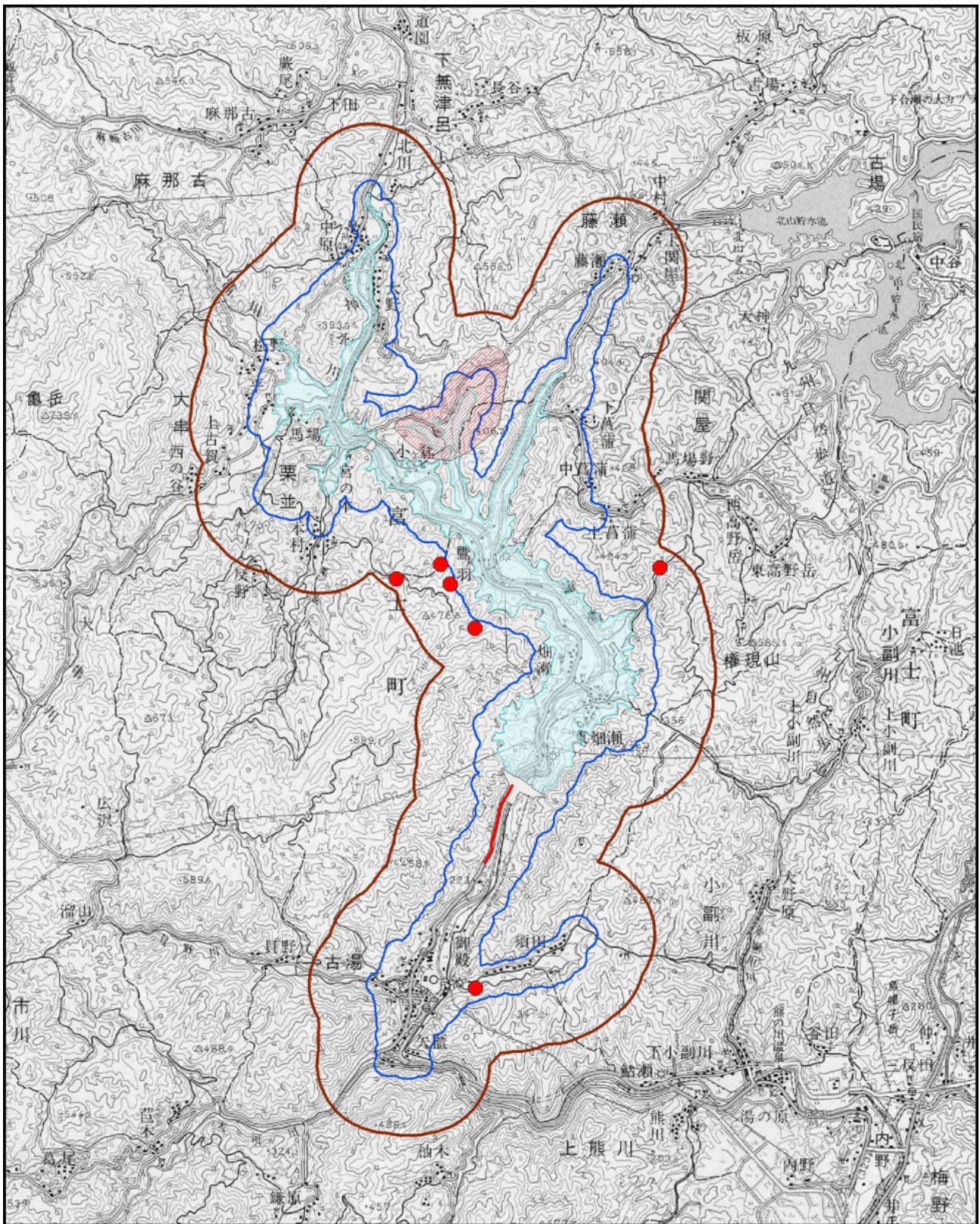
iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-5(4)に示す。

本種は、昭和60年度、61年度、平成11年度、13年度及び15年度の調査において、関屋地区の東畑瀬集落北の沢上流部1地点、栗並地区の鷹ノ羽集落西の沢沿い1地点、南西の山間部2地点及び南の沢1地点、須田川の須田集落周辺1地点、合計6地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、昭和60年度に嘉瀬川沿いの経路上、平成11年度に音無周辺、13年度の環境巡視において確認された記録がある。このほか、須田川周辺の生息地に関しては、専門家より山裾の水田等に産卵環境が分布するとの情報を得た。



確認地点の環境は、沢の周辺であり、周囲の植生はスギ・ヒノキ植林であった。また、成体及び幼体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に樹林及び水田に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  *
 -  *
- } : 確認地点



1:50,000

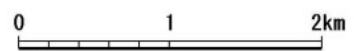


図4.1.5-5(4)
ヤマアカガエル確認地点

*: この経路内または範囲内で確認した記録がある。

c-5) トノサマガエル

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は本州(関東地方から仙台平野、信濃川流域を除く)、四国、九州²⁰⁾に分布する。佐賀県内では、三養基郡上峰町屋形原、鳥栖市朝日山、神埼郡三瀬村唐川、脊振村一谷、佐賀郡富士町杉山、貝野、東松浦郡七山村池原檜原湿原、池原中原、東松浦郡相知町千束、肥前町中浦、唐津市松南町、菜畑、山下町、神田、藤津郡嬉野町大野原²¹⁾、富士町、加部島、玄海町、佐賀市鍋島、基山町、脊振山、三瀬村、七山村、浜玉町、巖木町、相知町、山内町、伊万里市、太良町²¹⁾における記録がある。

平地から山際にかけての水田、池等に生息する²⁰⁾。変態時の幼体は水田の畦や近くの草叢で生活する²⁰⁾。幼生は主に植物食²⁰⁾であるが、幼体、成体共に動物食で、生きている昆虫やクモを食べる²⁰⁾。4月～7月に水田や湿地の浅い止水で繁殖²⁰⁾する。雌は年に1度だけ産卵²⁰⁾し、産卵数は1,800個～3,000個²⁰⁾である。幼生期間は、およそ1カ月半²⁰⁾である。生まれた翌年の秋に性成熟し、3年目から繁殖に参加²⁰⁾する。繁殖期の雄は、集団ディスプレイを行う²⁰⁾。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-5(5)に示す。

本種は、昭和60年度、61年度、平成9年度、11年度及び13年度～15年度の調査において、中原地区4地点、大串地区4地点、大野地区14地点、関屋地区10地点、栗並地区11地点、畑瀬地区10地点、古湯地区2地点、小副川地区14地点、上熊川地区2地点、内野地区1地点、嘉瀬川の官人橋から名尾

川までの区間 7 地点、嘉瀬川の嘉瀬川大堰から官人橋までの区間 2 地点、合計 81 地点で生息が確認された。また、平成 11 年度、12 年度及び 15 年度の環境巡視において、中原地区 1 地点、大野地区 15 地点、関屋地区 2 地点、栗並地区 32 地点、畑瀬地区 40 地点、古湯地区 1 地点、小副川地区 1 地点、合計 92 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 4 年度、6 年度、11 年度及び 14 年度の調査と、平成 13 年度及び 15 年度の環境巡視において、調査地域の水田や河川沿い等の広い範囲で確認された記録があり、文献²³⁾においては佐賀郡富士町古湯、上菖蒲、畑瀬第三発電所付近、松野、栗並等で多数確認された記録がある。

確認地点の環境は、水田、耕作地、嘉瀬川の河川敷等の水辺や水辺周辺の草地であり、成体、幼生、鳴き声等が多数確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、水田とその周辺及び河川敷の草地に広く生息すると考えられる。

c-6) シュレーゲルアオガエル

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - (爬虫類・両生類)(環境庁 2000年2月)」³⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」⁶⁾に掲載されていないが、「県内で希少」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州、五島列島に分布²⁰⁾する。佐賀県内では、鳥栖市九千部山、脊振村田中、脊振村池ノ平、神埼町三瀬村向合観音峠～神有間、佐賀郡富士町小副川、富士町中原、貝野、杉山、東松浦郡七山村池原、浜玉町山瀬、北波多村上竹有、呼子町殿の浦²¹⁾、玄海町、富士町、呼子町、塩鶴、唐津市竹古場、唐津市千々賀、嬉野町板屋²¹⁾における記録がある。

丘陵地や平野の水辺に生息²⁰⁾し、とくに水田の周囲に多い²⁰⁾。大型草本や樹木の上²⁰⁾でくらす。小昆虫類を捕食²⁰⁾する。繁殖期は、3月～6月²⁰⁾である。水ぎわの斜面の地中に巣穴を掘り、直径40mm～80mmの白い泡状の卵塊を産む²⁰⁾。卵数は100個～660個²⁰⁾である。幼生は、降雨により巣穴から流れ出し、水中で成長²⁰⁾して6月～8月に変態²⁰⁾する。

iii) 調査結果

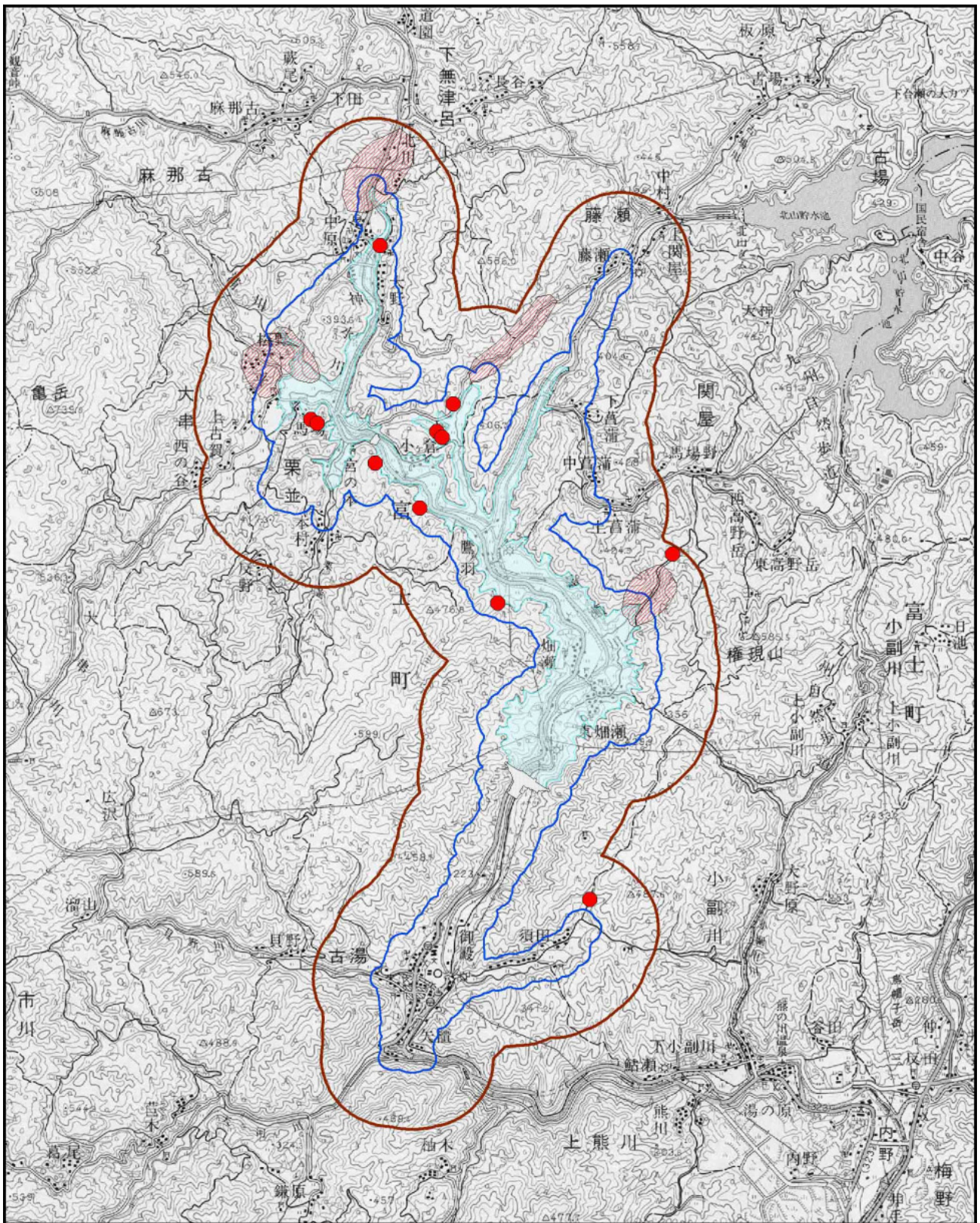
調査による確認地点を図4.1.5-5(6)に示す。

本種は、昭和60年度及び平成11年度の調査において、大野地区の音無周辺1地点及び南斜面1地点、関屋地区の東畑瀬集落北の沢上流部1地点、栗並地区の馬場集落周辺1地点、小副川地区の須田集落東の砂防ダム周辺1地点、合計5地点で生息が確認された。また、平成11年度及び12年度の環境巡視において、大野地区の音無周辺1地点、栗並地区の鷹ノ羽集落北東の沢周辺2地点及び南の沢1地点、馬場集落周辺2地点、宮ノ本集落南東の山間部1地点、神

水川の中原橋付近 1 地点、合計 8 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に藤瀬集落南西周辺、東畑瀬集落北周辺、北川橋上流付近、11 年度及び 14 年度に松野集落周辺、13 年度の環境巡視において確認された記録があり、文献²¹⁾においては中原の水田で確認された記録がある。

確認地点の環境は、水田や休耕地の周辺の水辺や樹林であり、水田に近い河川敷でも確認された。また、成体及び卵が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、水田周辺に広く生息し、水田の畦等を産卵場として利用していると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  } : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-5(6)
シュレーゲルアオガエル確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

c-7) カジカガエル

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布²⁰⁾する。佐賀県内では、県内の山間部の清流⁶⁾、鳥栖市河内、御手洗滝、東脊振村小川内、永山、犬井谷、佐賀郡富士町八反原、中村、熊の川、古湯、貝野、市川、畑瀬、鷹ノ羽、藤瀬、小ヶ倉、馬場、大野、北川、東松浦郡浜玉町見返りの滝、伊岐佐ダム、藤津郡太良町太良中山、鹿島市平谷²¹⁾における記録があり、富士町、厳木町²¹⁾、九千部山～脊振山～天山～作礼山と連なる山間部、黒髪山、多良岳の山間部の溪流に広く生息する²¹⁾。

山地に分布し、川幅の広い溪流や湖と、その周辺の川原、森林に生息する²²⁾。小昆虫類を捕食²⁰⁾する。幼生は、瀬の石に生えた藻を食べる²⁰⁾。繁殖期は4～7月²⁰⁾である。雄は川の瀬に集まって鳴く²⁰⁾。卵は直径1.7mm～2.5mmで、瀬の転石の下に産み付けられる²⁰⁾。一腹卵数は250個～800個²⁰⁾である。

iii) 調査結果

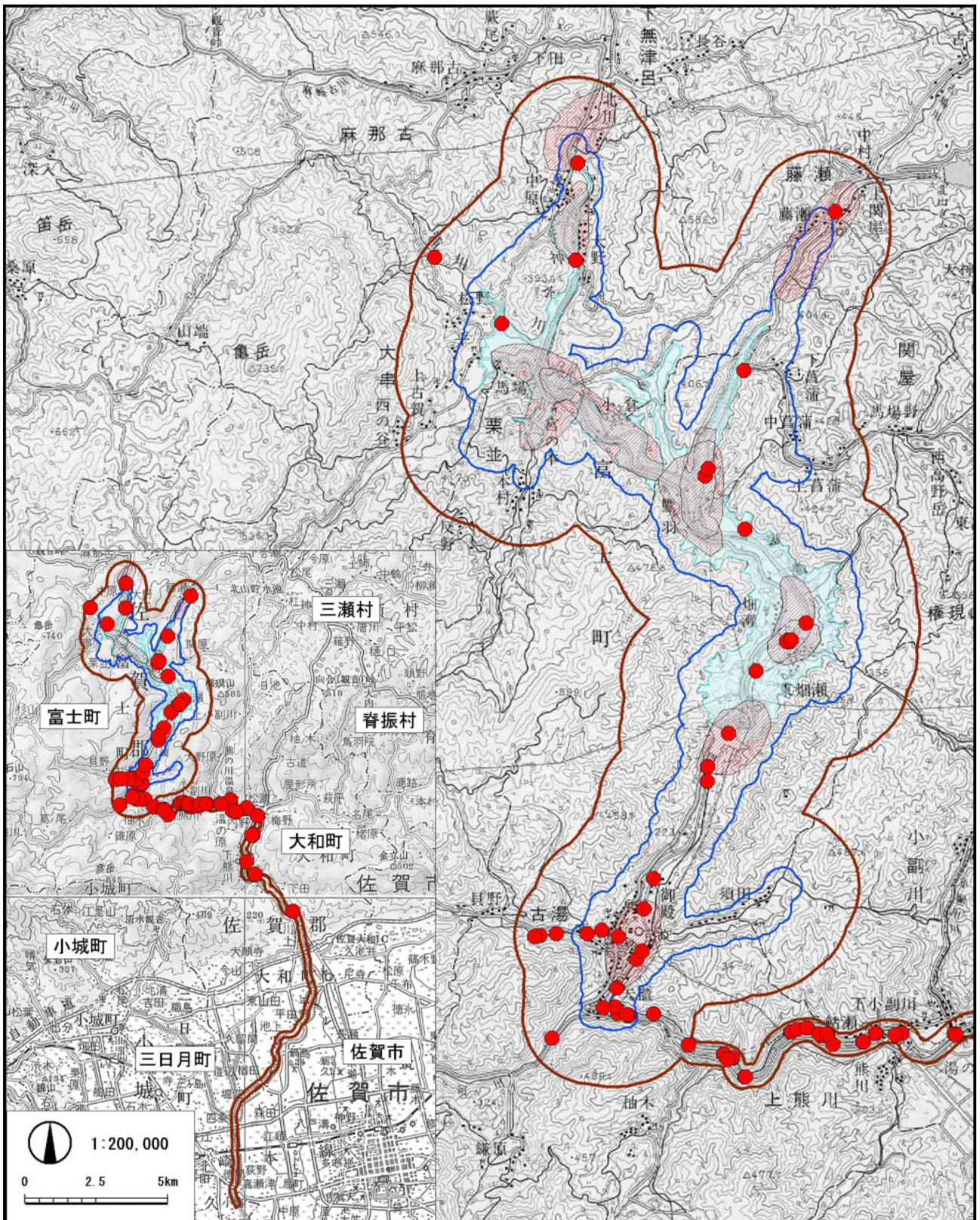
調査による確認地点を図4.1.5-5(7)に示す。

本種は、昭和61年度、平成11年度、14年度及び15年度の調査において、関屋地区3地点、畑瀬地区4地点、古湯地区6地点、小副川地区32地点、上熊川地区4地点、嘉瀬川の官人橋から名尾川合流点までの区間8地点、合計57地点で生息が確認された。また、平成11年度及び15年度の環境巡視において、古湯地区2地点、小副川地区1地点、合計3地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成6年度、11年度の調

査において、嘉瀬川、神水川、栗並川等の河川沿いで確認された記録があり、文献²⁴⁾においては下無津呂地区 1 地点、大串地区 1 地点、大野地区 2 地点、関屋地区 4 地点、畑瀬地区 2 地点、古湯地区 9 地点、小副川地区 1 地点、上熊川地区 3 地点、嘉瀬川の官人橋から名尾川合流点までの区間 2 地点、合計 25 地点で確認された記録がある。

確認地点の環境は、河川及びその周辺であり、成体、幼生及び卵が広い範囲で確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、河川内で広く繁殖し、河川周辺の樹林を含めた環境に生息すると考えられる。



- 凡 例
- : ダム堤体
 - : 副ダム
 - : 貯水予定区域
 - : 対象事業実施区域
 - : 調査地域

- } : 確認地点
- }

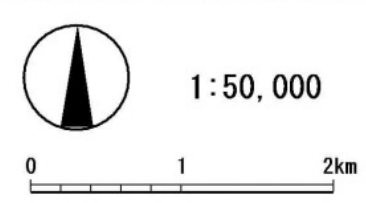


図4.1.5-5(7)
カジカガエル確認地点

* : この範囲内で確認した記録がある。